



総会第1会場

グランドプリンスホテル新高輪「国際館パミール」(東京・港区)で6月21日、前年よりも1,102名多い過去最多の4,332名の株主様にご出席いただき、午前10時に開会しました。質疑応答の時間には18名の株主様よりご質問や貴重なご意見を承り、その後、「定款一部変更」「取締役17名選任」「監査役1名選任」の3議案が承認・可決され、午後12時32分に閉会しました。質疑応答の内容の一部をご報告いたします。

.....

Q: 業績悪化の最大の要因は、何だったのでしょうか。

A: 2009年度はリーマンショックの影響や、新型インフルエンザの発生といった非常に大きな減収要因が発生しました。特に国際線では、景気低迷に伴う出張中止や、ビジネスクラスにご搭乗されていたお客様がエコノミークラスに移るといったダウングレードが広がったことなどから、旅客単価が30%以上も下落しました。2011年3月期に入り、ビ

ジネス需要が復調し、旅客単価も大きく回復しておりますので、増収に向けて頑張っております。

Q: 取締役が17名必要な理由と妥当性について教えてください。

A: 航空会社は、整備部門や運航部門、空港部門などの専門性が高い業務が多いことに加え、競争が激化している中で勝ち抜いていくためには、経営の強化が必要であり、17名の取締役は最低限必要であると認識しております。

今後とも効率的な経営を追求していくことには変わりはありません。ご理解のほどお願いいたします。

Q: 第1号議案で発行可能株式総数を51億株とする理由を教えてください。

A: 2009年7月に公募増資を行い、発行済株式数は25億株を超えました。現在の発行可能株式総数は39億株であり、発行済株式数が発行可能枠の65%弱に達しており、環境が激しく変化する中で、柔軟で機動的な資本政策を遂行するには発行可能枠が不足する可能性が出てきました。当社はそうした事態に備え、発行済株式数のおよそ2倍の発行可能枠を保持すべきと考えており、その発行可能枠を保持するために本議案を上程しました。なお、現時点で具体的な増資計画を進めているものではございません。

Q: 社外役員の具体的な役割について教えてください。

A: 社外取締役は企業の活性化のために重要な役割を果たすものと認識しており、当社は創業以来50年以上にわ

たり、常に複数の社外取締役を選任してまいりました。候補者の選定に当たっては、その方々の見識や経験によって、当社の経営に大所高所から適切なアドバイスやご意見を頂けることを念頭に置き、就任をお願いしています。取締役会をはじめとして、いろいろな場面で発言や意見を頂いており、取締役会のガバナンスを確実に発揮させる役割を果たしていただいています。また、社外取締役とは別に独自に経営諮問委員会を設置して、各界を代表する方々や大学の先生など、社外の方に広範な視点からご意見を伺うように努めています。

Q: 2011年3月期の黒字化に向けた取り組みについて教えてください。

A: 予断を許さない経営環境の中で、組織のスリム化、人件費の削減、販売費用の削減などにANAグループ全体で取り組み、860億円のコスト削減を目指します。そして、増収策と合わせて1,000億円を超える収支改善を行い、最終黒字化の達成を実現します。ANAグループの役職員全員が、この厳しい環境下で全力で努力を続けており、必ず実現できるという強い決意を持っています。

Q: ボーイング787型機の導入スケジュールについて教えてください。

A: 2009年12月に1号機の初飛行を終え、その後は4機のテストフライト機が飛び続けています。当社とボーイング社との間では、計画の進捗状況について常時確認してお



会場受付

り、現在、計画は順調に進んでいます。本年中に1号機受領を目指して、引き続きボーイング社の開発状況を見守っているところです。

Q: 新幹線の延伸は、営業面でどのような影響があると考えていますか。

A: 新幹線は、大きな輸送力を持った快適な交通機関であると認識しています。青森、九州、北陸と次々に延伸される新幹線に対して、当社はさまざまな割引運賃やマイレージサービスにより、お客様のご利用を促進してきており、今後も航空の、そしてANAならではの長を出して頑張っていきたいと考えています。一方、新幹線あるいは鉄道会社とは、ライバル関係だけではなく、旅行需要喚起という点ではパートナーとしての側面があり、旅行商品の共同開発や各種キャンペーンの共同展開を実施してきました。今後も、戦うべきところは戦い、協力すべきところは協力し、日本全体の観光需要の喚起に努めていきたいと考えています。

頂戴したご意見などを参考にさせていただき、今後、より一層のサービス改善や業務効率化に取り組んでまいります。株主の皆様におかれましては、引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



展示・お問い合わせコーナー